



所 報

令和4年12月1日

千代田区の魅力を生かす

千代田区立教育研究所
所長 山本 真

「千代田区の魅力は何ですか？」と聞かれたら、皆さんは、どのように答えますか。

一言で「千代田区の魅力」と言っても、環境的な側面、施設的な側面、歴史的な側面等々、様々な側面があると思いますが、いずれにしても、千代田区の教育施設で勤務している私たちは、本区の魅力を十分に把握し、最大限に活用した教育を展開する必要があると考えます。

さて、本区の歴史は、1457年に太田道灌が江戸氏居館跡に築城したことに始まり、徳川家康が、この江戸城を整備・居城し、代々の将軍が城及び市街地の拡張・整備を行い、現在の皇居を中心とした町が形成されました。

そして、江戸幕府の成立から今日までの400年以上にわたり、日本の政治や経済、文化等の中心地として発展してきました。以来、先人たちが成し遂げてきた輝かしい業績を脈々と受け継ぎ、大切にしながら、継承してきました。その結果として、本区は、今もなお、政治・経済の中心地として、ますます発展し続け、様々な文化財や歴史的建造物、史跡等も存在しております。また、世界18カ国の大使館等の施設もあり、国際的な側面も有しております。(11月9日現在)

さらに本区には、世界の中心として、先進的に飛躍、発展を続けている大企業や、「大手町・丸の内・有楽町(大・丸・有)のオフィス街」、「霞が関の官庁街」、「本の街 神保町」、「楽器の街 御茶ノ水」、「スポーツの街 小川町」、「サブカルチャーの街 秋葉原」など、古くからの商店街、今日的な街並みなどの特徴もあります。

このような、他に類を見ない、すばらしい区である千代田区で勤務している私たちは、様々な教育活動の中で、子どもたちとの何気ない会話の中で、本区の魅力を子どもたちに、確実に伝えることができているでしょうか。

あらためて、今年度、各学校・園で、校外学習等で訪問した区内施設等を以下に挙げてみました。

訪問した区内施設等

- 北の丸公園、日比谷公園、千鳥ヶ淵、外濠公園グラウンド、神田川流域(船による探索)、近隣公園施設等、など
- 東京駅・丸の内、飯田橋駅(絵画鑑賞)、千代田区役所、千代田図書館、日比谷図書文化館、皇居、国会議事堂、最高裁判所、警視庁、各省庁、科学技術館、憲政記念館 など
- 秋葉原電気街、神保町古書店街、岩本町問屋街、麹町大使館街 など
- 靖国神社、神田明神、山王日枝神社 など
- 職場体験学習として、区内施設、企業、商店等にも訪問し、職場体験学習を実施

上記に挙げた以外にも、各学校・園では、訪問した場所もあるのではないのでしょうか。いずれにしても、区全体の面積が11.66km²(23区中19番目)という小規模な区ではありますが、様々な側面から、大変魅力あられる区です。

小学校では、千代田区の魅力を「探り」、「学び」、「発見し」、「発表し」、「共有し合い」、より一層、【千代田愛】を育てていく取組として、「千代田楽」の学習も始まっています。皆さんも、子どもたちとともに、千代田区の魅力を再発見してみませんか。

目次

- 1 幼児教育(3年次研修・保幼交流研修・保育訪問、保育ウェブ) p.1, 2
- 2 研究(所内研究・教育課題調査研究) p.3
- 3 研修(若手教員育成研修1、2、3年次) p.4 (中堅教諭等資質向上研修) p.5
- 4 スクールソーシャルワーカー(SSW、いじめ・不登校等) p.6
- 5 白鳥教室 p.7
- 6 教育情報・教科書センター p.7



1 幼児教育

(1) 3年次研修・保幼交流研修・保育訪問

- **3年次研修** ■ 自分の書いている記録のよさや課題を見だし、保育に生かす ■
今年度は、研修のねらいを「1日の保育を振り返り、次の保育の指導に活かす能力を身に付けよう ～保育の記録から～」としました。研修の主な内容、成果は以下のとおりです。

- ① 研修生の研究保育1学期、2学期各1回
研修生の保育を観察後、協議会は『保育ウェブ』（※別途説明）の手法で幼児理解を深めたり、多様な援助の方法を学んだりしました。
- ② 他園の先生の保育から学ぶ
経験7年目の先生の保育を観察しました。見通しをもち、幼児の様子を丁寧に見守りながら、必要な経験を重ねられる援助を目のあたりにし、自身の保育を振り返る機会になりました。
- ③ 講演会（リモート）の開催
幼児主体の保育を行うための『保育ウェブ』の活用について、講師から園の実践事例を用いながらの講話と、研修生と講師をリモートでつないで、『保育ウェブ』の作成を実施しました。リモートで参加した区内の園の先生方はその様子を見ながら、『保育ウェブ』を通して様々な職層の先生方と対等に話し、幼児の実態を捉える視野や遊びの展開の予想が広がっていくことを学びました。



- **保幼交流研修** ■ 研修生の研修を充実させる ■

教育委員会の研修の一つとして、今年度は、神田保育園の保育士を番町幼稚園に、番町幼稚園の教諭を神田保育園に派遣し、一年間研修を行っています。目的は、在籍している園によらず質の高い乳幼児教育を求め、それぞれの経験を異なる場で生かすことです。1年間の研修期間内に保育観察や協議会を設け、研修生や受け入れ園の学びを深めています。今年度は保育観察後に研修生、該当園長と一緒に『保育ウェブ』を行い、乳幼児の理解を深めました。教育研究所は、それぞれの園に月1回程度出向き、研修生の思いを聞き取り、研修の成果を研修生本人や当該園長、指導課、子ども支援課等と共有し、充実した研修となるよう、また、この保幼交流研修が千代田区全体の保育の質の向上につながるよう努めています。



- **保育訪問** ■ 保育ウェブを活用し、幼児理解を深める ■

訪問では、事前に保育訪問票に記載された課題を中心に、保育観察と協議会を実施しています。協議会では、その日に撮影した保育場面の動画を視聴し、『保育ウェブ』を実施しました。立場の異なる複数の保育者が参加することで、様々な考えや思いを聞く機会となり、より一層幼児理解を深めると共に、明日の手立てを多面的に考えることができたと思います。また、小学校との連携を踏まえ、特に低学年の学習について幼稚園教諭の関心や理解が深まるように努めました。1年生の教科書を見ながら、授業の進め方や考え方等について具体的に触れ、言語環境を幼児教育でどう生かしていくかを考えた幼小連携が深まる機会にしました。



1年生の教科書の説明を聞いたり、教科書を見たりする

(2) 保育ウェブ

保育ウェブは、小・中学校でも活用できるツール

[保育ウェブについての説明]

保育ウェブについては様々な方法や解釈がありますが、一般には、中心にテーマ（保育観察で見た遊びの場面）を置き、その周囲にクモの巣状にアイデアを書き出していくものです。



保育の動画を見ながら、子どもの動きを付箋に書いたり、直接話し合ったりしていく

保育訪問や3年次研修会、保幼交流研修では、次のような手順で『保育ウェブ』を用いた研修を行っています。

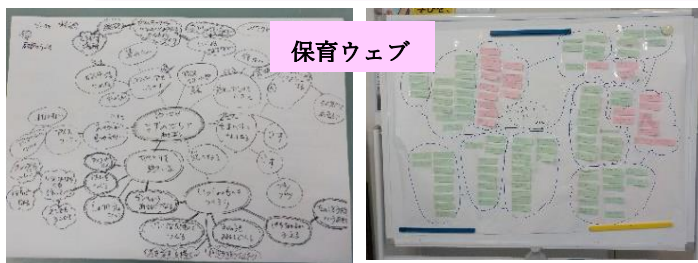
- 1 保育ウェブを行う目的を明確にする。
- 2 遊びの場面の動画（4、5分程度）または遊びの記録を用いる。
- 3 進行役（研究所の教育研究専門員または指導主事）の声掛けで実施する。
 - ① 付箋に書く（1行動1枚の付箋）
 - ・幼児がしていること、面白がっていること、楽しんでいることを書く。
 - ・保育者がしていること（援助、言葉掛け）を書く。
 - ② 各自が書いたものの内容を言葉で言いながら付箋で出していき、進行役が紙に貼っていく。
 - ③ 明日以降子どもの遊びがどうなるかを予想する。
 - ・明日、幼児は何をやるか想像して書き、保育者は明日どうするかを考える。
（何を準備・どんな言葉かけ）

<保育ウェブを行う上での約束>

※ここがとても重要です。和気あいあいと楽しい雰囲気で行いましょう。

☆経験年数、年齢、役職にとらわれず、どの人も思い付いた意見や考えを言ってよい。

☆どの人の意見も否定しない。（そういう見方や考え方もあると受け止める）



保育ウェブ

【保育ウェブを行った感想】

- 意見を積極的に言いにくい人も、見たことを伝えればよいので、話しやすい。
- 幼児が、実はこんな気持ちだったんだと改めて気付かされた。
- 明日、教師は何をしたらいいかの予測はできやすいが、子どもはどのようなかが見つからない。子ども主体の保育を心掛けるには、まずは子どもの姿の予想ができるようになりたい。

色々な考え方があることを知る



初対面同士でもできる

少人数でも大勢でもできる



様々な職層の人や異業種と対等に意見を出し合う

◆保育ウェブのよさについて

- 紙とペンがあればどこでもできる
- 5分でも2時間でもできる

指導課は教育研究所の教育研究専門員、各園長と連携しながら保育の質の向上を図っております。

ここで挙げられている『保育ウェブ』を用いた研修は、幼児理解を深め、その後の対応を考える上で効果的なものになりました。これは幼児だけでなく、学校の児童・生徒理解にも同様の効果があると考えます。児童・生徒について教職員で話し合って理解を深め、どのような支援や対策ができるかを考えることは、学習指導や生活指導でも活用できます。他の研修等でも取り入れることができるよう検討していきます。
(指導主事 戸栗 大貴)

【担当】<教育研究専門員> 大関 邦子 宇田川 嘉一 長田 真理子 <指導主事> 戸栗 大貴

2 研究

(1) 所内研究

今年度の研究主題は、本区の教育課題を踏まえて「特別支援教育を考える」と設定しました。その上で所員がそれぞれの職務に応じて副題を設け、基本的な資料や文献の紹介・体験活動・意見交換等を通して学び合いました。10月までに取り上げた副題と主な内容は、次の通りです。

月 日	副題	主な内容
5月31日	～千代田区の現状と課題等～	国及び都の動向、本区の施策、課題と解決策に関する討議等
6月17日	～「若手教員・A 教諭への助言」を糸口に～	教諭の自己診断、現状と目標設定、授業研究での助言、論説の紹介、意見交流等
7月27日	～新聞記事をはじめ 各種情報を読み解きながら～	学習指導要領における障害のある児童・生徒への配慮、授業のUD化モデル等
8月 5日	～特別支援教育をSDGsの側面から捉えてみると～	ESDに関する論説の紹介、SDGsの概念と小学校の実践、意見交流等
8月 8日	～私が思う 幼稚園・こども園で大切にしたいこと～	幼稚園教育要領及び論説の紹介、研修用資料（4歳児、日常の支援）の視聴と協議等
8月24日	～多様な生徒間の相互理解 コンセンサスゲームを通して～	コンセンサスゲームの目的と内容及び方法、グループワーク体験、意見交流等
10月7日	～発達障害のある子どもの困り感に寄り添う支援～	困り感の疑似体験、当事者である子と母の手記から考える支援、意見交流等

今後も、教育研究所として学校教育・心理・福祉の視点から研究主題に迫り、その成果を若手教員育成研修や各学校園への情報提供等に資するよう努めてまいります。

【担当】＜教育研究専門員＞ 宇田川 嘉一 額賀 聡

(2) 教育課題調査研究

- ① 5月、今年度の教育課題調査研究部会が、区内各小中学校及び中等教育学校の代表14名の委員構成（昨年度からの継続…7名、新規…7名）で始まりました。調査研究のねらいを、「千代田区の教育課題に関して調査研究を行うことにより課題解決を図り、その調査研究結果を踏まえ学校（園）教育において活用できる指導プログラムを作成する。さらに、その成果を区内各校を対象に公表し、もって区の教育行政・学校教育の向上を図る。」としています。
- ② 昨年度は1年次の調査研究として、「すべての児童・生徒にとって、主体的に思考を深められるICTの活用」のテーマのもと、3分科会にて授業研究・協議を重ね、「授業・学びを変える」ことを目指しました。2年次となる今年度は、昨年度の成果（令和3年度千代田区教育課題調査研究部会リーフレット参照）を広げることを目指し取り組んできています。また、OODAループの考え方を大切にして調査研究を進めることとしました。 ※OODA（ウーダ）と読む。 Observe（観察）→Orient（方向付け）→Decide（判断）→Action（行動）のサイクル
- ③ 6月にはつくば市立みどりの学園義務教育学校を訪問し、学園生によるプレゼンテーション視聴や授業観察、懇談並びに質疑応答等に臨みました。そして各委員がそれらの内容について各校で報告をすることにより、各校の組織的なICTの利活用を進めていくことをねらいました。
- ④ 7、8月には、イシュー（issue：論じ考えるべきテーマ）やSWOT分析、ロジックツリーの活用、MECE（ミーシー：漏れなくダブリなく）などの考え方を取り入れながら、自校の強みや弱み、課題解決に向けた原因の追究等について、4つの分科会で協議を深めました。その上で委員は、担当指導主事による解決策の模擬プレゼンテーションを見て学び、分科会ごとに課題とその解決策等の精査にあたり、発表に向けての準備・計画を進めました。
- ⑤ 9月の各分科会の解決策提案では、「千代田区オンラインサロン」「Chiyoda Library ちよらぶ」「Chiyoda Time Revolution：CTR」「教材ウィキペディア」が発表され、講師の先生より高く評価され、今後の取組への熱いエールを頂戴しました。今後、11月から2月にかけて、オンラインセミナーやライブ配信イベント等について手掛ける予定です。

【担当】＜教育研究専門員＞ 額賀 聡 長田 真理子 木暮 温 <指導主事> 塚田 恭平

3 研修

(1) 若手教員育成研修

若手教員育成研修は、「校外における研修」と「校内における授業研究」の二本柱で実施しています。本号では、主に授業研究にスポットを当てます。今年度は、小中学校1～3年次の若手教員17名を対象に、延べ34回の授業研究を実施し、紙面の都合で各年次1事例ずつ若手教員の活躍ぶりを紹介します。

○ 1年次

- ① 授業の概要 A 小学校 特別支援学級(知的・固定)国語 単元「教室にあるものなあんだ！」
 - ・児童(2名)の実態に応じて、身の回りの物の名前や色・形・大きさなどに関する語彙を豊かにし、友達や周囲の人たちと伝え合うことができるようにすることを単元の目標としている。
 - ・本時は全3時間扱いの第2時で、「教室にある身の回りにある物の特徴を見つけること」を目標とした。児童は、色・形・大きさ・さわった様子をワークシートに書き込み、発表していた。
- ② 授業後の主な協議
 - ・児童の個別指導計画に基づき、課題を解決できるように学習内容と方法を工夫すること。
 - ・本単元の言語活動を教師が明確に位置付け、身の回りの物の特徴を紹介したり発表したりする体験的な活動を中心にして授業を構成すること。
- ③ 今後期待すること
 - ・児童の反応や変容を記録する方法をさらに工夫すること。さらに、分析と考察を通して学習目標の達成状況を把握し、支援の内容と方法を改善すること。
 - ・本実践のように、個々の児童に応じた教材教具の工夫を継続し、教育実践を蓄積すること。

1学期の初任者教室訪問では「どのように授業づくりを進めているか、児童たちとどのような学級をつくっていききたいか」など、悩みも含めて話を伺うことができました。夏季集中研修では1学期の教育実践を踏まえて自己の課題を明らかにし、2学期に向けた抱負を発表する姿が見られました。9月になって授業研究が始まり、児童・生徒理解、教材研究、学習指導案の作成に取り組んでいます。また、授業後の協議等を学習指導案の再構成や次時の授業構成に反映させ、研修の成果を日々の教育活動に生かそうと努めています。年度末に向け、初任者の先生方には今まで以上に課題意識をもち、研修に取り組まれることを期待しています。

○ 2年次

- ① 授業の概要 B 小学校 国語科 単元「そうぞうしたことを音読げきであらわそう」
 - ・教材文「お手紙」を、登場人物の会話や行動をもとに想像を広げながら読み、終末に音読劇を設定している。本時は全12時間の第5時で、第2場面の「かえるくんの行動から、かえるくのがまくんに対する気持ちに気づき、それをもとにした音読の工夫ができる。」を目標としている。
- ② 授業後の主な協議
 - ・児童は「かえるくん」の気持ちを吹き出しにしっかりと書いていた。自分の力で考え、文字に表すことを普段から継続し、書くことをいとわない児童を育てる教師の姿勢が素晴らしい。
 - ・個人作業やペア学習では進んで机間指導を行い、支援が必要な児童には励ましや助言を与えていた。また、児童の記述やペアでの役割読みのきらりと光る場面を見逃さず、意図的指名で発表を促し価値づけていたことに授業者の成長を感じる。
- ③ 今後期待すること
 - ・児童のよさを認め、褒める場面がたくさんあった。授業者が心にゆとりをもち、笑顔で児童に向き合うことが、児童の安心感や学習意欲の向上に繋がる。
 - ・自己の課題として発問構成の難しさを挙げている。一朝一夕に身に付くものではなく、本単元も含めて日々の実践を糧に課題を一つ一つ解決し、自信をもって取り組んでほしい。

2年次は3名の少数精鋭です。夏季休業中の8月2日の第2回若手教員育成研修(2年次)において、「指導観を大切にした学習指導」についての協働的な学びの中で、指導案作成のポイントや、持ち寄った学習指導案から授業者の意図を読み取る力を身に付けることができました。更なる学習指導力向上に向けて、研鑽を積んでいくことを期待しています。

○ 3 年次

① 授業の概要 C 中学校 美術科 単元「自宅に飾る超現実」

- 作品を仕上げる過程では、立体感や構成美、遠近法等の技能習得の要素が含まれていて、この時期の美術科の学習に適した教材になっていた。同時に、「登山ルートを考える」として、山登りに見立てたアイデアスケッチ決定までの絵図が、美術科としての問題解決型の学習に結び付き、生徒が自身に適した学び方等をつかむことにつながっていた。

② 授業後の主な協議

- 与える学びではなく、生徒自らが課題を設定して進める「主体的な学び」を探る、保健体育科との合同協議会となった。協議では、ともに技能教科と言われる2教科共通の課題にも話題が及び、生徒の気風を活かしていこうとする授業者のみなざる意欲が伝わってきた。
- 美的センスで括られてしまいがちな美術科の教科特性を、生徒が自分なりの「答え」をつくる能力を育む学びへと転じていく、今回の授業の計画と実践が多岐にわたり評価された。

③ 今後期待すること

- 美術の価値ある学びを充実させていくためにも美術室内の読書環境も整えていってほしい。

【担当】<教育研究専門員> 木暮 温 額賀 聡 宇田川 嘉一 <指導主事> 戸栗 大貴 山本 孝之

(2) 中堅教諭等資質向上研修

千代田区教育委員会で主管する全8回の本研修のうち、4回（授業研究に関わる4単位）の研修を指導課と協働して実施しています。今年度、授業研究に関わる受講対象者は3名おり、授業力向上を目指して意欲的に学び合っています。

初回は、6月に指導教諭による模範授業実践（和泉小学校 第6学年 外国語科）を参観しました。各自コラボノートを使って「授業力の6要素」に基づいて記録・分析し、自身の課題を明らかにしました。明日の授業づくりに生かす視点として整理し、授業改善に向かっていきます。

続く3回の研修では、各中堅教諭が授業者となって研究授業を行いました。（9月：麹町小学校 第3学年 理科、10月：お茶の水小学校 第1学年 国語科、11月：富士見小学校 第2学年 道徳科）また、協議会の運営も研修の一環であり、各回役割（司会、記録者、助言者）を分担して、授業改善の視点を明確にした協議を進めました。改めて学習指導要領を読み込むことを通して、「教科の見方・考え方」や身に付けるべき「資質・能力」について捉え直したり、「問題解決の学習過程」や「授業のユニバーサルデザイン化」について勉強したりしています。

これらの研修を通して、中堅教諭は自校の若手教員の授業改善や授業評価にも関わりながら自身の授業力を向上させ、同時に若手教員に対する指導力も身に付けています。本研修での学びを生かして、学校運営の一翼を担うミドルリーダーとしての自覚と意識をより高め、チーム学校の中核となり、これまで以上に自校の教育課題に向き合い着実な資質向上に努めてほしいと願っています。

【担当】<教育研究専門員> 長田 真理子 額賀 聡 木暮 温 <指導主事> 野津 公輝

「学びを楽しくすること」

指導課指導主事 塚田 恭平

目をキラキラさせながら、「わっ！」と歓声があがるほどの学びの場を設定できた瞬間に、私は教師としてのやりがいを感じます。皆さんはどんな時に、やりがいを感じますか。

私は、授業のデザインを考えると、料理人の例え話を思い出します。子どもを健やかに育てたいのならば、料理人として栄養価が高くバランスのとれた魅力的な料理を提供しなければなりません。そのためには、料理が美味しそうに見えるか、食べたときに美味しいと感じるか、また食べたいと思えるか、を考え工夫しながら調理する必要があります。

子どもにとって価値のある知識を、子どもが興味を持つように、学んでからもっと知りたいたいと感じられるように、工夫した経験は失敗を含めて良い思い出です。『難易度設定をせずにオリジナル数学問題を生徒が作成し、みんなで解いたら全問が秒で解けたり』、『教室の座席を全員の協議で決めたらクラスの学力に大きな変化があったり』しましたが、仮説検証を繰り返すことで授業の再デザインと省察力に繋がりました。

現在は、仮説検証を繰り返す「知のクリエイター」である先生方の姿に勇気を頂きながら、自らが企画する研修会での学びを楽しくすることにやりがいを感じております。

4 スクールソーシャルワーカー

多様な児童・生徒をチーム学校で支える

12年ぶりに改訂される『生徒指導提要』の改訂案では、今年6月公布の「こども基本法」を取り上げ、全ての子どもが個人として尊重されること等が明記され、また、学校・教職員と関係諸機関、地域、家庭が連携の強化及びチーム学校による組織的支援について強調されました。スクールソーシャルワーカー（以下、SSWと記す）も、福祉的な専門知識を有するチーム学校の一員として活用してもらえよう工夫していきます。



・SSW活用の趣旨

いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生活指導上の諸問題の背景にある児童・生徒の環境に働きかけることにより、児童・生徒一人一人のQOL（Quality Of Life）を高め、健全な成長をサポートするため、社会福祉等の専門的な知識・技術を有するSSWが、各学校に派遣されています。

・SSWの主な職務

(1) 問題を抱える児童・生徒が置かれた環境への働きかけ

児童・生徒本人への働きかけでは解決しない問題があります。背景にある問題を明らかにし、児童・生徒の最善の利益を考え、児童・生徒が本来の力を発揮できるよう、家庭、地域、友人関係、学校等の環境に働きかけます。

(2) 関係機関とのネットワーク構築、連携又は調整

問題を抱える児童・生徒やその家族、学校等の実情に応じて、関係機関との橋渡しを行います。各関係機関が連携し、より効果的な支援の展開を目指します。

(3) 学校内におけるチーム体制充実に向けた支援

児童・生徒や家庭の状況を把握し、その環境への有効な働きかけを行うため必要に応じて教員等との情報共有や校内会議・ケース会議への参加を通して福祉的な視点から助言を行います。

(4) 児童等、保護者及び教職員に対する支援、相談及び情報提供

児童・生徒が置かれた困難な状況を改善するために、本人や保護者との面談、家庭訪問等を行います。また、家庭や学校に対して、公的または民間を含めた様々な社会資源の情報等を提供します。

(5) 千代田区立の小学校及び中学校における教職員等への研修

教職員への集合研修や校内での研修を実施し、家庭や学校で起こりえる問題への対応や福祉に関する知識等、情報提供を行います。

子どもの権利を尊重し、子どもの最善の利益を考えた支援を一緒に目指していきましょう。

【担当】 <SSW> 朝岡 右子 則岡 陽香 <指導主事> 塚田 恭平

いじめ・不登校等

- ・各校は「いじめ防止対策基本方針」をホームページで公開し、「本校は、いじめに速やかに対応する学校であること」を明言しています。「いじめ防止対策推進法」では、いじめかどうかは、被害児童・生徒の主観によるとなっておりますが、集団生活の中ではいじめの芽となるトラブルは日常的に発生することがあります。トラブルを解決する過程で、児童・生徒は健全な人間関係を学びながら成長していきますが、その環境次第では、トラブルがいじめの芽となり、いじめ行為が増長していきます。いじめが疑われる様子を見付けたら、被害者・加害者の両方を救い、学級経営の課題を振り返る機会と捉えることが大切です。いじめはゼロではなく、いじめに苦しむ子どもは必ずいるという認識のもと、アンテナを高く張り、児童・生徒を見守ることが必要です。
- ・千代田区立学校の「不登校（月13日以上欠席の場合）」は9月末の調査で約90人です。その内、白鳥教室（適応指導教室）に登録している児童・生徒は約1/3です。不登校の理由は、同年齢の集団になじめない、起立性調節障害等、個々により様々ですが、コロナ禍による休校・リモート学習・保護者のリモートワークなどにより、スタート時点での不安や学習のつまずき、家庭環境の変化が影響を与えたとされる事例もうかがえます。また、児童・生徒の安否確認が困難であるなどのケースについては、各校が医療機関を含む諸機関と連携し確認に努めています。

【担当】 <教育研究専門員> 宮森 巖 <学校問題対策専門員> 霜田 浩明 <指導主事> 塚田 恭平

5 白鳥教室

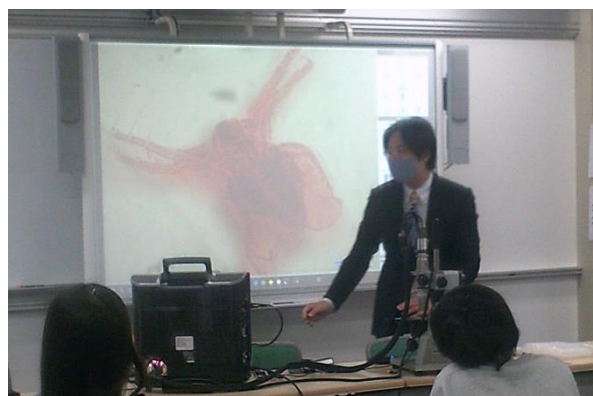
白鳥教室は、様々な理由で登校できないでいる児童・生徒たちが、安心して過ごせるための教室です。白鳥教室に通室することで生活リズムを整え、学習や栽培・軽スポーツ・レクリエーションなどの体験活動を通して、社会的自立に向けた力を養っています。

通室生は毎年増加傾向にあり（令和元年度14名、令和2年度17名、令和3年度29名）、今年度は10月までに26名（小学生9名、中学生17名）が登録しています。そのため、今年度は適応指導員を1名増員し、常時2名体制で児童・生徒たちへの指導や支援を行っています。集団が大きくなったことで、教室に入ることによる不安を感じたり、落ち着いて生活しづらくなったりしている児童・生徒もいますが、適応指導員が児童・生徒と相談し、安心して過ごせる方法を一緒に考えています。

新型コロナウイルスの影響で、この2年間は制限されていた体験活動ですが、社会の状況を踏まえつつ、今年度は徐々に活動の幅を広げました。7月には、校外学習として、日本銀行金融研究所貨幣博物館への見学を行いました。白鳥教室から徒歩20分程の場所にあり、児童・生徒たちも安心して出かけることができました。学芸員の方の説明を受けた後、展示を見て貨幣の歴史などについて学びました。現在の貨幣の偽造防止対策の精巧さに驚いたり、当時の貨幣の価値を現代に置き換えて考えたりと、それぞれに貨幣への理解を深め、金融への意識を高めることができました。

また、同じく7月に、白鳥教室に昨年度通室していた高校1年生3名を招いて、「卒業生のお話を聴く会」を開催しました。志望校決定までの流れや受験の準備の仕方、高校生活の様子など、実体験に基づく生の声を聴かせてもらいました。身近な先輩の言葉は児童・生徒一人一人の心に響いたようで、「ほっとした」「この高校に興味を湧いた」などの感想が聞かれました。自分に合った進路の実現に向けて、イメージを膨らませることができたのではないかと思います。

今後も、児童・生徒たちの社会的自立に向けて、知識や考える力、豊かな心を養う一助となるような体験活動を工夫して行いたいと考えています。



科学出前講座【デジタルマイクロスコープ】
他に、美術出前講座【身の回りの小さな美をさがしてみよう】を実施しました。

【担当】<適応指導員> 新井 聡美 松山 美紀子 <教育研究専門員> 宮森 巖 <指導主事> 塚田 恭平

6 教育情報・教科書センター

(1) 教育情報資料

情報資料室では、「初等教育資料」や「中等教育資料」「総合教育技術」「指導と評価」「幼児教育じほう」「発達」等のバックナンバー、その他、「園・学校だより」や研究発表資料、他地区から寄せられた資料も閲覧できます。

(2) 教科書と教科書展示会

現在使用している千代田区立小中学校・中等教育学校、特別支援学級の教科書の他に、各課程の高等学校、弱視者のための拡大教科書の展示もしています。現行の教科書の他に、過去の教科書の閲覧も可能です。

なお、令和5年度使用の高等学校の教科書展示会を、6/10～23の期間、千代田図書館で実施しました。



【担当】<教育研究専門員> 宮森 巖 大関 邦子 長田 真理子 <指導主事> 塚田 恭平

こちらのQRコードから千代田区立教育研究所のホームページがご覧いただけます。⇒

